

介護の人手不足 「低賃金が原因」

きよつから電話相談

県内の介護福祉施設などで働く介護福祉士やホームヘルパーらの賃金月額は平均約二十万二千円で、全産業の労働者に比べ十二万七千円低いことが、県医療介護福祉労組連合会（県医労連）の労働実態調査で分かった。県医労連は「低賃金などが離職者の増加や介護現場の人手不足を招いている」とし、介護報酬の引き上げなどを国などに要求する。

調査は昨年十二月に初めて実施し、約五千八百人のうち九百六十五人が回答した。

それによると、賃金はホームヘルパーに限るとさらに低く、十六万八千円。パートの場合の平均時間給は九百九十九円にとどまるといふ。

約50%の人が介護などの仕事を「辞めたいと思ったことがある」とし、理由として「賃金が安い」「仕事が忙しすぎる」「社会的評価が低い」などを挙げた。夜勤や当直が多く、約43%が「健康が不安」とした。

県医労連は二十五日から三日間の日程で、介護

労働者やホームヘルパーらを対象にした無料の「労働相談一一〇番」
電052(883)6955
55を開設する。受け付けはいつでも午後二時から七時まで。

2002.12.25
中野明